

新型コロナウイルスによる休園中の園対応と園児の生活

小山 祥子

Kindergarten Activities and Children's Home Life during the Covid-19 School Closures

Shoko KOYAMA

論文要旨

2020 年初頭から世界を席卷する新型コロナウイルスの感染拡大によって、幼稚園では休園措置が 2 か月間続いた。初めて経験する長期間におよぶ休園で、幼稚園は何をしたのか、園児はどのような生活を送っていたかを検証し、そこから知見や教訓を得て後世に伝えることは、教育現場の責務と考える。

本稿は、休園期間中に付属幼稚園で実施した園側の対応と、園児や保護者がそれらをどのように受け止め、実際の生活がどのようなであったのかについて、園再開後のアンケート調査から実態を明らかにしたものである。その結果、家庭では園からの手作り教材や動画配信が喜ばれる一方で、園児の言動の変化が顕著かつ多岐に渡っていたことから、毎日通園することによる生活リズムや友だちと過ごす園生活が安定した成長に大切であることが示唆された。園では、非常事態にすぐ対応できる ICT 化を進める一方で、非常事態時にこそ、子どもの権利保障の視点にたち、園と家庭が協力して直接やりとりするアナログ的な取り組みも必要であることが確認された。

キーワード：非常事態、園の対応、園児の生活、言動の変化、子どもの権利

はじめに

2020 年初頭から全世界を襲っている新型コロナウイルス (Covid-19)、現代に生きる人間が初めて体験する感染症拡大に対して、各国で都度、感染対策が更新されている。日本政府は、2020 年 2 月 27 日に学校機関の一斉臨時休校を要請し、引き続き 4 月 7 日に緊急事態宣言を発出した。そのことにより休校措置は約 2 か月間延長され、学校教育機関は実質、3 月 1 日から 5 月 31 日まで年度をまたいで通学・通園は停止し、園児児童生徒らは自宅生活を余儀なくされた。

幼稚園は、小学校以上の教科教育の場とは大きく異なり、幼児が発達にふさわしい生活の中

で遊びを中心とした活動を行い、教師がねらいとする活動を集団生活の中で直接体験するという場である。そのため、休園によってそれらの活動が行えないという事実は、いまだかつて園側は経験したことがない。そのため、新年度から 2 か月の間は、各園が手探りの中、試行錯誤しながら園の対応について取り組んできたところが多い。

そこで、本稿では、休園期間中に、園側がどのような対応を園児や保護者に試みたのか、そして、園児や保護者はそれをどう受け止めたのかを明らかにする。非常事態の状況下で、子どもの健やかな心身の発達を促す幼児教育の挑戦、その検証結果から知見や教訓を得て後世に

伝えることは、今後の非常事態時の備えとなり、そのこと自体が教育現場の責務であると考え

1. 研究方法

2020年4月7日に発出された緊急事態宣言により5月末まで休園となった期間、幼稚園側の園児と保護者への対応について、文科省から通達された内容と併せて、これまで経験したことがない幼児教育の実践内容を時系列順に整理する。

その後、園が行った実践内容に対する園児と保護者側の受け止め、また休園中の子どもの生活実態について、園再開後に行ったアンケート調査の回答から検証、考察を試みる。それらを通して、非常事態時における教育現場の備え、優先すべき対応について検討する。

2. 休園中の幼稚園の対応

1) 幼稚園対応の経緯

政府から緊急事態宣言が発出されることが明らかになった4月6日（月）、保護者には4月9日（木）～5月6日（水）まで休園となること、新年度のクラス編成・担任発表等、年度始まりに必要な連絡は後日郵送する旨を緊急メールで配信した。同日、稲城市私立幼稚園協会では緊急園長会議を実施し、市内8園の運営について情報共有した。保育料（教材費・通園バス代等）の扱い、預かり保育の実施、感染対策に必要な衛生用品の調達に関する情報共有を行い、実際の教育活動の提供については、各園で取り組むことを確認しあった。

4月7日（火）18時に緊急事態宣言が正式に発出された翌日、本園では再度、緊急メールで1か月間の行動自粛の呼びかけと、新2号園児¹⁾に対する預かり保育の実施について連絡をした。預かり保育実施の決定理由は、文科省通達（2文科初第57号）²⁾により、保育を必要とする園児の居場所確保の依頼がなされたためである。4月8日（水）には、全教員で業務分担し

ながら、配布する手紙類、1か月分の学年別の教材の準備に入った。同日、すべての封入物の準備を終え、夕刻には全園児宛に郵送手続きを終えた。

政府の休校要請は5月6日（水）までであったが、本園においては再開日を5月11日（月）へと変更した。その理由は、6日に宣言が解除されても、園内整備や休園中の感染状況を踏まえた準備に時間が必要である考えたからである。そのことは、後になって必要な2日間であったと振り返る。

5月6日（水）、緊急事態措置が5月31日まで延期されることとなった。本園も5月11日（月）～31日（日）を休園とし、5月分の教材配布と、休園中の預かり保育実施の連絡を保護者にメール配信した。本連絡より、情報が多く複雑な内容となってきたため、幼稚園のホームページの一部にパスワード機能をかけ、保護者への情報手段として使用するようになった。

5月25日（月）、緊急事態宣言が解除されることとなった。本園は、6月1日（月）に学年別に始園式、6月2日（火）にクラス別に入園式を行うことを決定し、翌日からは1クラスを2グループに分けた分散保育を実施することにより、感染対策を踏まえた保育を再開することにした。

2) 教材作りと教材配布

長期にわたる休園で、園児たちはどのように家庭で過ごすのか、それは保護者に委ねることにはなるが、園としては教育教材を提供する義務がある。協議の上、毎日の生活にメリハリがつくお手伝いシート、親子で楽しめる工作類、体を動かす遊び、歌や手遊びの楽譜、親子で楽しむお話等、保育内容五領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）が盛り込まれるよう考慮し、発達に応じた内容となるよう学年別に用意した。

4月の配布は郵送とし、新年度のクラス発表等の手紙や園長挨拶文、また返信用葉書を同封

した。

5月分の教材は、同様の目的で学年別に準備し、教材配布は新担任と園児・保護者が直接顔を合わせられるよう、バス通園者には担任が添乗して配布、徒歩通園者にはクラス別に指定時間に来園してもらい、担任と園児は初めて顔合わせをした。

3) 個別の電話連絡

4月20日に協議し、在園している園児保護者へ電話連絡をして現況確認をすることを決めた。年度変わりという時期もあり、電話の1回目は旧担任、新入園児は未就園児担当教員から電話し、2回目は新担任から電話するように2段階で行った。面識のある教員から電話することで、親子で安心してもらい、次週には新担任から電話がある旨を伝え、不在の場合は、後日かけるようにした。主に、休園中の子どもの様子を聞き、保護者から相談事を持ちかけられたら話し相手になる、というように、園児の健康状態の把握と必要な家庭への支援に努めた。本電話連絡は、後に、厚労省子ども家庭局長通達³⁾、文科省事務連絡⁴⁾で依頼された内容で、本園にとって先行した取り組みとなった。

4) 動画配信

(1) 配信にあたっての準備

4月初、多くの大学機関では対面授業を中止しオンライン授業に切り替える準備に入った。幼稚園では、幼児教育の特性からオンライン教育の難しさがあり、経験のないことだっただけに考えあぐねていた。そんな中、本園の1教員によって、幼稚園向きの動画配信プログラムがあるという情報を得、個人情報やサービスの責任について信用できる利用規約を確認した後、7月末まで無料登録できるSmart Education「Kits おうちえん <http://ouchien.jp>」を導入することとした。

但し、動画配信にあたっては、子どもにスマートフォンやタブレット等の機器に触れさせるこ

とになるため、適切な利用方法と強制的な視聴ではないことを明示した説明文書を園HP上に掲出した。園側の目的は、第一に子どもと先生を繋ぐことであり、第二に在園児には園生活を忘れないでほしい、新入園児には園生活に親しみをもってもらう、ということで撮影と配信の準備に入った。

(2) 配信内容

担当教員を中心に、子どもにとって興味のもてるプログラムを考え、学年ごとに撮影者と被撮影者を分担して作業に入った。実際には5月18日～27日の間に、1回につき5～6項目、全5回(5/18, 5/20, 5/22, 5/25, 5/27)配信し、パスワードを知る園関係者のみに公開した。配信内容は、先生たちからのメッセージ、手遊び、季節の歌(4～6月)、絵本の読み聞かせ、パネルシアター、親子体操、じゃんけんや言葉を使ったゲーム、本園の朝の会で行っているお正念⁵⁾、帰りの会等、生活の節目や気分転換に役立つと思われる内容で構成した。動画閲覧は、分散保育時でも役立つよう6～7月も継続し、7月末で配信を停止した。

5) 幼稚園の感染症対策の実際とその発信

2月24日、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議より「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針の具体化に向けた見解」が出され、翌25日には政府より「新型コロナ感染症対策について国民の皆さまへのメッセージ」が出されたのを受け、本園では、最初の感染対策ガイドラインを作成し、2019年度の在園児保護者に向けて配布した。主に、園内の衛生管理の徹底、保育形態の工夫、健康な体作りのための保育活動、家庭へのお願いとして、十分な食事、睡眠、朝の検温、学年別の分散登降園を依頼した。

学園本部で組織された新型コロナ感染症対策委員会には、園の感染対策を報告、以降、動向に応じた報告を3回(3/13, 3/24, 3/30)行い、緊急時に連携した対応が図れるようにした。3

月18日には、2020年度の進級園児と新入園児の保護者に新学期からの感染対策を文書で配布した。

4月8日には、前日の緊急事態宣言という初めての緊張感ある事態に、幼子を抱える保護者からの不安の声に応えるべく、「令和2年度新年度を笑顔で迎えるために」を園長メッセージとして教材と一緒に配布し、休園中も幼稚園は開けていること、何かあれば電話相談が可能であることを伝えた。また、郵便葉書を同封し、子どもの様子や保護者の思い等を伝えてもらう手段とした。5月末までにほとんどの親子から返信があり、各家庭で工夫した生活を送っている様子や親子の近況や心境を知ることができた。

5月4日に緊急事態宣言の延長が決まり、園生活の開始がもう少し先になることで、家庭での生活に少しでも励ましとなればという思いで、5月11日に「子どもの“今”を大切に～非常時も平常時もかけがえのない今を生きる～」と題して園長メッセージを教材と共に同封した。その中で、「子どもの権利」についてヤヌシュ・コルチャック⁶⁾の言葉を紹介して家庭育児を応援する内容を記載し、育児に疲れてしまった時、悩んでいる時に使用できる園の携帯電話番号を伝えた。

5月末で緊急事態宣言が解除となり、6月1日から保育を再開するにあたっては、再度全教員で感染防止対策を協議し、改めて『新型コロナウイルス感染防止対策 5月29日現在』⁷⁾を策定し、全保護者に配信した。内容は、感染症対策だけに偏るのではなく、幼児期ならではの大切な育ちの時間と場所を確保するための内容を盛り込み、文科省の感染症対策ガイドラインと照らし合わせた本園の対策、また日本小児科学会の医学的知見に基づく本園の対策、最後に家庭へのお願い事項を列記して小冊子を作成した。(巻末に参考資料として添付) また、詳細を読む時間がない保護者に配慮して、要点を抑えたダイジェスト版⁸⁾も作成、教職員がすべき

対応マニュアル(令和2年6月1日版)⁹⁾と共に、園HPに掲出し、いつでもどこでも閲覧可能ないようにした。

6月に幼稚園を再開してから取り組んだ事は、徹底した衛生管理である。用務員には毎日10時と13時に園児や教員の手が触れる園内各所を消毒液で清拭してもらい、教員による清掃は、登園前と降園後に消毒液による清拭と遊具の消毒等、新たな方法に切り替えた。また、園関係者に濃厚接触者や感染者が出た場合の準備も始めた。文科省からのフローチャート¹⁰⁾を参考に、実際に連絡すべき箇所の電話番号の確認、当該園児や教員の態様が追えるように保育日誌の記載の変更¹¹⁾、全園児の毎朝の検温の転記、教職員の健康確認、消毒液の在庫管理の徹底など、連携し実践している。

6) 保育再開後の園児の通園状況

6月1日に本園の2020年度がスタートした。当面分散保育にしたため、6月は土曜日も開園した。最初の1週間(6/1～5)で感染を恐れ登園自粛した園児は延13名(実質7名)いた。そのため、6月8日(月)には園児たちの様子や追加の対策を伝える「幼稚園再開へ、おかえりなさい～アンケートのお礼と追加のお願いについて～」の園長メッセージを配布し、園として保護者の不安軽減に努めた。また、昨年度末に導入した園業務ICTシステムのアプリ(コードモン)の機能を用いて、クラス担任からその日の保育について保護者向けに「お知らせ」の配信を開始した。2週目(6/8～13)の登園自粛は延15名(実質5名)と少し減り、3週目(6/15～6/20)は延11名(実質4名)、4週目(6/22～27)は実質1名となった。7月1日より全員登園としたが、登園自粛者は2名と増えた。7月2週目からは再度、全国で感染拡大が顕著となり、園児の体調不良や家族に発熱者がいた場合に欠席するお願いをしていたこともあり、7月10日(金)の欠席数は、年少14名・年中3名、年長1名計18名と急増した。第二波の到来が

予測される状況と梅雨に入り室内活動が多くなったため、本園は13日（月）から再度分散保育に切り替えた。以降、欠席者は13日17名、14日12名、15日22名と減ることなく、7月31日（金）に第1学期終業式を迎えることとなった。

3. 休園中の園児の生活実態

1) 調査概要

調査内容：休園中のお子様の様子について

調査対象：付属幼稚園の保護者171名

調査時期：6月1日配付、回収率98.8%

2) 調査結果

4月～5月の休園中の園児の様子について、保護者に尋ねた質問と結果は次の通りである。

(1) 園児が過ごしていた場所

【表1】園児が過ごしていた場所 (N=169)

ほぼ毎日 自宅	時々 屋外	ほぼ毎日 屋外	帰省先	その他
34.0%	36.0%	27.0%	2.4%	1.8%

ほぼ毎日自宅で過ごしていた園児は57名（34%）、時々屋外へ買い物や通院で外出した園児は60名（36%）、ほぼ毎日屋外に出ていた園児は46名（27%）、遠方に住む（保護者の実家へ帰省した園児は4名（2.4%）、その他には、預かり保育で幼稚園で過ごした園児、市内の祖父母宅に通っていた園児の計3名（1.8%）であった。

(2) 園児がしていた活動内容

室内遊びは165名（97.6%）、戸外遊びは143名（84.6%）であり、室内での活動の方が多かった。

室内遊びの内容は、玩具を使った遊びが157名（92.9%）、制作や描画活動が140名（82.8%）、映像視聴が148名（87.6%）であった。映像の内訳は、テレビ視聴が114名（67.5%）、DVD

視聴が89名（52.7%）、スマホ視聴が57名（33.7%）であった。

戸外遊びの内容は、散歩130名（76.9%）で最多、自転車29名（年少2名、年中16名、年長11名）（17.2%）、ストライダー20名（年少13名、年中6名、年長1名）（11.8%）、縄跳び17名（10.1%）、砂遊び16名（年少10名、年中2名、年長4名）（9.5%）、ボールやサッカー14名、虫採り9名、公園遊具9名、シャボン玉6名、キックボード5名、ブレイブボード2名であった。

その他の活動は、38名（22.5%）あり、具体的には、菓子作りなど料理の手伝いが最も多く11名（6.5%）、習い事のオンラインレッスンが8名（4.7%）、庭・畑でのガーデニングは7名（4.1%）、以降、習い事4名、ペットと遊ぶ3名、ビデオ通話・ドリル・ダンスが各2名であった。

(3) 保護者が感じた園児の変化

「休園中にお子様の困った出来事や言動はありましたか」という質問に対し、「あった」と回答した保護者は80名（47.3%）、「なかった」は87名（51.5%）であった。保護者が感じた子どもの困った出来事や言動は自由記述で回答してもらった。内容が多岐に渡るため、基本的生活習慣である「睡眠・食事・排泄・清潔・衣服の着脱」、と「情緒・態度・その他」の項目として分類を試み整理した。結果は表2のようであった。

【表2】休園期間中の子どもの変化

	具体的な様子の変化	年少	年中	年長	計
睡眠	・夜驚の症状あり、夜中に怖い夢を見てしばらく泣いていた（初めて）	3	1	1	5
	・寝つきが悪くなる、あまり寝なくなる	0	2	1	3
	・夜に眠らず、朝に起きられない	0	2	0	2

食事	・食事中遊んだり立ち歩いたり、遊んだり落ち着かない	1	2	1	4
	・菓子やアイス等、甘い物を食べる回数が増えた	1	1	1	3
	・食事の量が減った、好き嫌いが増えた	0	0	2	2
排泄	・おもらしが多くなった	2	1	3	6
	・トイレに一人で行けなくなった	1	4	0	5
	・夜尿するようになった	0	1	2	3
清潔	・手洗いに神経質になり、しっかりできないと泣き出し癇癪を起すことがあった	0	2	2	4
	・手洗いた後も洗ったか確認し、手の臭いを気にしたりするようになった	0	2	1	3
	・今までできていた着替えを一人でやらなくなった	0	3	0	3
着脱	・気に入らないこと、要求が通らないと、大泣きし、興奮し、感情のコントロールが難しいと感じることが多々あった。(急に泣く、癇癪を起す)	4	7	8	19
	・不機嫌、イライラしていることが多い、怒りっぽくなった	4	4	6	14
	・甘えることが多くなった	0	5	5	10
情緒	・嫌だと言うことが多くなった	2	2	4	8
	・チックが出るようになった	0	1	1	2
	・嘘をつくようになった	0	1	1	2
態度	・まつ毛を抜いてしまう行為が何度かあった	0	0	1	1
	・爪噛みが激しくなった	0	0	1	1
	・子どもの声や足音の注意喚起があり、親子で神経質になっていた	1	0	0	1
態度	・きょうだい喧嘩が増えた、姉兄の勉強の邪魔をする	4	3	4	11
	・コロナを極端に怖がり、外に行きたがらなくなる、誰とも会わないという	2	2	4	8
	・親に向かって手を出す、要求が通らないと叩く	1	3	2	6
態度	・赤ちゃん返りや、いやいや期に逆戻りしたりするような態度がみられた	3	0	1	4
態度	・怒られると逆切れして部屋にこもる、怒られると一人になりたがる、反抗的態度をとる	0	0	4	4
	・家の中で走る、激しく動く	2	0	1	3
	・友だちにも緊張して笑顔を見せることがなくなった、人見知りになった	1	1	1	3
態度	・入園(進級)を楽しみにしていたが、コロナを伝えると「幼稚園いかない」と強く訴えるようになった	1	1	0	2
	・玩具を投げたり、きょうだいに噛みついたりすることがあった	1	1	0	2
	・アニメ・ゲームが好きで興奮しやすくなった、動画を真似して突然突進する	0	0	2	2
言葉	・言葉遣いが悪くなった	3	5	5	13
	・大きな声ではしゃぐ、叫ぶ、奇声を発するようになった	5	5	1	11
	・ひとり言、ぼやきが多くなった	0	0	1	1
その他	・自己中心的になり譲ることができなくなった	0	0	1	1
	・今まで我慢できていたことができなくなった	0	0	1	1
	・母親から離れられない	0	0	1	1
その他	・突然「つまらない!」と叫び、もがいて泣き出した(1度)	0	0	1	1
	・これまで以上にいろいろなことを怖がるようになった(絵本や本で「離れる」「病気になる」という内容に不安になっていた)	0	0	1	1
	・赤ちゃんの頃のぬいぐるみを自分で出してきて、ずっと一緒にいた(外出時も)	0	0	1	1
その他	・テレビのニュース速報の音や大きな音に異常に驚いてしまう	0	0	1	1
	・落ち着きや注意力が足りないと感じるが増えた	0	0	1	1
	・外出するとすぐに「疲れた」と言うようになった	0	0	1	1
その他	・「幼稚園に行きたい」といつて泣く	0	0	1	1
	事例数 計	41	62	77	180

4. 幼稚園の対応に対する園児と保護者の反応

1) 調査概要

調査内容：休園中の幼稚園の対応について

調査対象：在園児の保護者 171 名

調査時期：6月8日配布、回収率 87.1%

2) 調査結果

(1) 教材配布はあってよかったと思うか

「よかった」138 名 (92.6%)

「なくてもよい」2 名 (1.3%)

「どちらともいえない」9 名 (6%)

「よかった」という回答理由のほとんどは、生活習慣に役立った、園とのつながりを喜んで、工作など室内遊びが広がった、家のマンネリ化した遊びに変化があった、お手伝いの目安となった等であった。「なくてもよい」「どちらともいえない」の理由には、外遊びの方を好んでいたから、求めている教材ではなかった、一緒に取り組む時間がなかった、すでに自分たちで取り組む教材を用意していた、子どもが興味を持たなかった等の理由があげられていた。

(2) 教材に対する子どもの取り組みの様子

6 項目の教材について、子どもの様子を次の 3 段階で保護者に評価してもらった。

- a. 喜んで取り組んでいた
- b. あまり興味を示さなかった
- c. 取り組まなかった

【表 3】教材に対する子どもの取り組み

(N=149, 単位 %)

教材	a	b	c
1. 工作キット	83.6	14.8	1.3
2. 折り紙セット	75.8	20.8	3.4
3. お手伝いシート	71.1	20.8	6.7
4. 運動遊び	47.0	35.6	16.8
5. 季節の歌の楽譜	38.3	45.6	15.4
6. お話（行事の由来話）	28.9	53.7	16.8

工作や折り紙等、親子で取り組むものは概ね喜んでいて様子であり、手遊びや歌は紙面では

取り組むことが難しいようであった。

(3) 園児と保護者の教材配布への満足度

a. 大満足 b. 満足 c. ふつう d. あまり満足していない e. 満足していない の 5 段階で評価してもらった。

【表 4】教材配布への満足度 (N=149, 単位 %)

	a	b	c	d	e
園児	34.2	45.0	26.8	1.3	0
保護者	38.9	46.3	12.8	0	0

8 割以上の園児と保護者は教材配布に満足していただけたようである。

(4) 個別の電話連絡について

電話をかけた時間帯について、「特に問題ない」という回答は 147 名 (98.6%) であり、「受信できなかった」「外出先で受信し子どもに代われなかった」が各 1 名いた。「子どもは電話の相手や内容について理解していたか」は、「理解していた」105 名 (70.5%)、「わかっていない様子」36 名 (24.2%) で、その内訳は年少 23 名、年中 10 名、年長 3 名であった。自由記述欄には、「子どもは喜んで」「旧担任と新担任から 2 回電話があってよかった」「先生の生の声を聞いて安心した」「話ができてほっとした」「心が軽くなった」等、保護者側が安心したという表現の記述が多かった。

(5) 動画配信について

配信自体について「よかった」128 名 (85.9%)、「ふつう」6 名 (4.0%)、「課題がある」4 名 (2.7%)、「わからない」10 名 (6.7%) であった。

「よかった」理由には、親子で楽しめた、幼稚園は楽しい所だと思えた、先生たちの顔を見て喜んで、園生活を知ることができた、園や先生たちに親しみがもてた、卒園した兄姉と一緒に喜べた、であった。「課題がある」には、ネット設備が整っていない、ログインするのに

手間取った、との理由があげられ、「わからない」と回答した人のほとんどは、見ていないという理由であった。

動画の視聴回数は、「毎日のように視聴した」61名（40.9%）、「時々視聴した」76名（51.0%）、「視聴していない」10名（6.7%）であった。

動画視聴の目的は、複数回答で1番多かったのが、「先生と親しみがもてるようにするため」129名（86.6%）、2位が「園と親しみがもてるようにするため」123名（82.6%）、3位「暇を持て余していたため」38名（25.5%）、4位「規則正しい生活をつくるため」29名（19.5%）、以下、「機嫌が悪い時に気分転換となったため」13名（8.7%）、その他5名、無回答10名であった。

動画を見る機器の使用の仕方でも多かったのは、「親と一緒にいった」118名（79.2%）、次に「時々子どもだけでいった」16名（10.7%）、「子どもだけでいった」1名であった。

動画の1回の利用時間は、「5～15分程度」が最も多く95名（63.8%）、続いて「30分程度」37名（24.8%）、「1時間以内」は3名であった。

動画の各プログラムの園児の反応については、a.興味をもった b.ふつう c.あまり興味をもたなかった で回答してもらった。

【表5】 各プログラムの園児の興味度
(N=149, 単位%)

動画プログラム	a	b	c
1. 絵本	65.1	18.1	6.0
2. エブロンシアター / パネルシアター	60.4	18.8	6.7
3. 手遊び	55.0	23.5	10.1
4. 体操・遊戯等身体表現	53.7	26.8	8.7
5. うた	53.7	26.2	10.1
6. お正念（仏教保育）	53.7	24.2	11.4
7. 植物の種植えの様子	51.0	21.5	12.8
8. 先生とのゲーム	47.0	24.8	12.8

今後の動画配信については、「通常保育が開始するまで配信してほしい」56名（37.6%）、「配信はなくてよい」27名（18.1%）、「どちらとも

いえない」が一番多く60名（40.3%）であった。

5. 考察と課題

1点目は休園中の園児の生活の実態についてである。約三分の一の園児は自宅に籠った生活をしており、戸外遊びより室内遊びの時間が長いことがわかった。室内では、映像を観る機会が多く、スマホ利用児も三分の一に及んでいた。この状況下に、幼稚園が教育活動の一環として送った手作り教材は、新鮮味があり、メリハリのある生活に役立ったという感想が多いことから、子どもの実態に合った教材であったと考える。一方で、毎日戸外遊びをしていた園児は、散歩、幼児用乗り物やボールを使った遊び等、多様な遊びで体を動かしている様子があった。室内で過ごす時間が長い園児と毎日戸外で体を動かしていた園児との体力差や身体機能発達に差が出ないか今後危惧される。園から体を使った遊び、体操等の動画を配信したことは、室内で過ごす親子には役に立ったと思われる。

2点目は休園中の園の対応についてである。本園は2年前から業務のICT化に着手してきた。今回のような突然の休園、また新年度という環境の変化に対しても結果的に遅延なく情報発信できた。今後、感染防止の観点からも有効活用できる通信手段となった。但し、保護者側からは今後の動画配信については6割の人がなくてよい、またはどちらともいえないであった。園児・保護者の思いや変化に気づくための直接的対話や、映像では味わえない手作り教材等のアナログ的対応を保護者側は求めているといえる。手間暇が必要な幼児教育には大切な視点である。

3点目は休園中の園児の変化についてである。二人に一人の園児に保護者からみて困った変化がみられ、年齢が上がるごとに増えていることから、本非常事態を理解しがたい年少児、ある程度理解できるからこそ不安を抱き、多岐に渡る言動変化を表わしていた年中・年長児であったと思われる。ネガティブな言動変化は主

に、基本的生活習慣の退行、情緒不安定を示す行動や態度、暴力的行為の頻発であったといえる。子どもの心は態度に現れる、子どもは社会の鏡であることを鑑みると、非常事態下においてはネガティブな子どもの変化こそ正常な反応であったと考える。改めて、遊ぶ権利・学ぶ権利・意見を表明する権利等を有する「子どもの権利」、非常事態にこそ、本権利に着目した取り組みが必要であろう。子どもの権利条約31条の会¹²⁾では、今般改めて絵本やポスターを作り子どもの声を代弁している。一方で、良い成長を見せた園児も二分の一いることを忘れてはならない。家庭環境によっても子どもの変化は異なる。中には、普段体験できない家庭での活動（菓子作り、手伝い、植物の栽培等）を通して、保護者は子どもの成長を認めている。本稿では制約上、子どもの良い変化について上掲できなかったが、家族構成、在宅勤務の有無、集合住宅か否かによって受ける園児の生活への影響を明らかにすることは今後の課題である。幼稚園生活をすでに体験し習慣を身につけている年長児や年中児は、一定時間同年代の子どもと過ごす時間がどれだけ大切なものであるかは言うまでもない。新学期の2か月間、友だちに会えない、先生に会えない、親と離れた場で自己発揮できない、という状況はかなりの精神的抑圧、年齢相応の体験の欠如に繋がっていると考える。毎日通園することによる生活リズムや友だちと過ごす園生活が、子どもの安定した成長に大切であることを改めて確認した。

おわりに

本稿を執筆している最中、第三波が襲ってきた。2度目の緊急事態宣言が出されたのは1月7日、本園第3学期の前日である。再度、園児に密接、密集を避ける無理難題な行動や環境整備に注視しなければならない。子どもは子どもの中で育つ。直接経験が心を動かし、意欲をもたせ、何かに挑戦していくことで適切な態度を身につけていく、これこそが幼児教育である。

今年度春の2か月間の休園と分散保育によって、1学期はほとんど園児同士の人間関係、担任と保護者の信頼関係を築けないままに終わった。そのことが2学期後半に現れてきたと感じている。園児同士のトラブル、解決に保護者の理解が得にくい事案、これ以上の教育体験の欠如は健全な育ちに避けなければと思っている。とはいえ、集団感染を防ぎ、園児の命を守ることは最優先事項である。

第二次大戦中、コルチャックは、子どもも大人と対等に生きる人間としての権利をもつことを主張した。コロナ禍という准戦時下ともいえる異様な状況が続くが、人間の基礎を培う乳幼児期のかげがえのない今を保障するのは大人の責務である。子どもの心の叫びに報いるためにも、非常時における幼児の発達保障の視点、子どもの権利保障の視点をもって切れ目のない幼児教育を確立させていきたいものである。

注

- 1) 新2号園児とは、保護者が就労等でその子どもが保育を必要とされると認定を受けている園児をいう。
- 2) 文科省初等教育通第57号「8.幼稚園を臨時休園する場合の預かり保育等の提供に関すること」の中に、「…（省略）、必要な者に保育が提供されないということがないように、居場所の確保に向けた取組を検討いただきたい…（省略）保育の必要性の認定を受けている幼児であって、保護者が医療従事者や社会の機能を維持するために就業を継続することが必要な者、ひとり親家庭などで仕事を休むことが困難な者の子どもの保育が必要な場合などについては積極的な対応を検討いただきたい…（省略）」と記載がある。
- 3) 厚労省子ども家庭局長 子発0427第3号（令和2年4月27日）「子どもの見守り強化アクションプランの実施について」の中で、支援ニーズの高い子どもを早期に

発見する体制、定期的に見守る体制を強化する旨の依頼連絡である。

- 4) 文科省初等中等教育局幼児教育課事務連絡（令和2年4月23日公布）1-（1）には、「自宅で過ごす幼児及び保護者との連携を密にし、幼児本人とも直接電話等で対話すること等により、幼児の健康状態の把握や心のケア等、家庭における幼児の心身の健全な発達に向けた必要な支援を行うこと、…（略）」という依頼連絡である。
- 5) お正念とは、仏教保育の中で行われている幼児向け坐禅のことをいう。本園では静かに目を閉じ、手を組み、瞑想曲が流れる中、椅子坐禅で数分間行っている。
- 6) ヤヌシュ・コルチャック（1878-1942）ユダヤ系ポーランド人でユダヤ人孤児のために孤児院を開設、子どもの権利条約の草案となった概念を著作と実践から広めた。『人はいかに子供を愛するのか』（1919）
- 7) 本園ホームページ
https://www.komajo.ac.jp/kin/guardian/pdf/komajo_kin_covid-19_guidelin_200529.pdf
- 8) 本園ホームページ
https://www.komajo.ac.jp/kin/guardian/pdf/komajo_kin_covid-19_digest_200529.pdf
- 9) 本園ホームページ
https://www.komajo.ac.jp/kin/guardian/pdf/komajo_kin_covid-19_manual_200601.pdf
- 10) 文科事務次官2 文科初第57号（令和2年4月7日）「Ⅱ.新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業の実施に関するガイドライン」の改訂について（通知）p.11.
- 11) 保育日誌には、クラスの園児が活動した場所と時間帯を保育後に追記録し、感染者が発生しても接触した相手や感染者の態様が記録から追えるようにした。
- 12) 特定非営利活動法人子どもの文化NPO

Art.31 では、本コロナ禍において「遊ぶことをやめない、学ぶことをやめない、つながることをやめない」をアピールした絵本、ポスターを作成し、子どもの権利31条の啓蒙活動をしている。通信第20号『コロナ問題と子どもの権利』

参考文献

文部科学省初等中等教育局幼児教育課 令和2年5月13日『新型コロナウイルス感染症への対応のための幼稚園等の取組事例集』

謝辞

本稿執筆にあたり、本園保護者様よりアンケートにご協力いただきましたこと、また、本園の非常時における運営についてご理解賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

教員各位においては、コロナ禍における柔軟な思考と保育実践、日々衛生管理への業務負担、園児や保護者への細やかな対応にご尽力いただきましたことに心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染防止対策

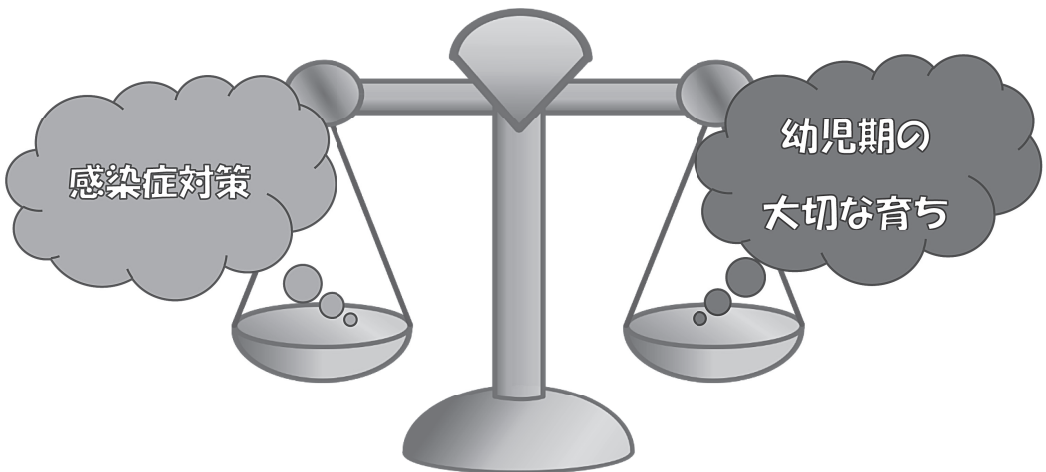
学校法人駒澤学園 駒沢女子短期大学付属

こまざわ幼稚園





2020年5月29日現在

緊急事態宣言の解除に伴い、学校関係への休業要請も緩和され、段階的に再開することが可能となりました。しかしながら、事態が終息したわけではありません。政府が推奨する「新しい生活様式」と東京都が示す「新型コロナウイルス感染症を乗り越えるためのロードマップ」にのっとり、本園も感染防止に努めてまいりたいと思います。

本対策は、文部科学省、東京都生活文化局私学部、日本小児科学会の指標をもとに、本園の教育方針と環境に合わせて策定しました。保護者様におかれましては、ご周知の上、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、状況が変化した場合には、本内容もそれに合わせて変更してまいります。



<目次>

1. 文科省の感染症対策ガイドライン  と本園の対策  …p. 2～5
2. 日本小児科学会の医学的知見  と本園の対策  …p. 6
3. 園内に感染者が出た場合の対応……p. 7
4. ご家庭へのお願い……p. 7
5. 【参考】東京都が示す学校運営に関するロードマップ……p. 8～10
6. 令和2年度の本園の行事について……p. 11

1. 文科省の感染症対策ガイドラインと本園の対策

【資料】文部科学省『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～』2020.5.22 Ver.1 より幼稚園に関係する箇所のみを抜粋、一部わかりやすい文章表現に変えているところもあります。

学校における基本的な感染症対策の実施	こまざわ幼稚園の感染防止策
<p>1. 感染源を絶つこと</p> <p>① 発熱等の風邪の症状がある場合には登園しないことへの徹底</p> <p>② 登園時の健康状態の把握</p> <p>③ 登園時に発熱等の風邪の症状が見られた場合は、当該園児を安全に帰宅させ、症状がなくなるまでは自宅で休養するよう指導します。特に低年齢児は、保護者の迎えを待つ際は他児との接触を避けるようにします。</p> <p>2. 感染経路を絶つこと</p> <p>① 手洗い：手指で目・鼻・口をできるだけ触らないように指導するとともに手洗いを徹底します。流水で手洗いができない場合には、アルコールを含んだ手指消毒薬を使用します。</p> <p>② 咳エチケット：咳やくしゃみをする際、マスクやティッシュ・ハンカチ・袖・肘内側で口は鼻をおさえます。</p> <p>③ 消毒：保育室やトイレなど、多くの園児が手を触れる箇所は、1日1回以上消毒液（消毒用エタノールや次亜塩素酸ナトリウム等）を使用して清拭します。用具や物品の共有を避けることができれば避けるようにしますが、消毒できるものについては消毒を行い、使用後には手洗いをするように指導します。</p> <p>3. 抵抗力を高めること</p> <p>免疫力を高めるため、「十分な睡眠」「適度な運動」「バランスの取れた食事」を心がけるよう指導します。</p>	<p>① お子様の登園前の健康観察と、無理のない登園をお願いします。</p> <p>② 毎朝「検温表」を提出してください。</p> <p>③ 保育者はよく子どもを観察し、いつもと違う状態が見られた場合は検温します。発熱や風邪の症状が強く見られた場合は、保護者の方に電話連絡しますので、早めにお迎えをお願いします。その間、お子さんは別室で待つようにします。</p> <p>※いつでも連絡可能なようにお願いします。</p> <p>① 手洗いの時間を適宜設けます。時間をかけ一人ひとりの手洗いを見届けます。石鹸はプッシュ式ソープに変更しました。アルコール消毒も適宜併用します。手荒れがある場合、担任へお知らせください。</p> <p>② 体操服のポケットに、必ずハンカチを入れてください。幼児の咳エチケットは難しいためお互いの理解をお願いします。</p> <p>③ 多くの子どもが手を触れる箇所は、1時間おきに職員が次亜塩素酸で清拭して回ります。用具や物品の共有物は保育後に全部消毒します。絵本コーナー・階段下のままごとコーナーの使用と粘土遊びはしばらくお休みします。</p> <p>トイレの便座を頻繁に清拭します。トイレ出入口には消毒液マットを常設します。排泄後の手洗いを指導します。</p> <p>⇒このことについては、各ご家庭で取り組まれますようお願いいたします。</p>

集団感染のリスクへの対応	こまざわ幼稚園の感染防止策
<p>1. 「密閉」の回避（換気の徹底）</p> <p>換気は、気候上可能な限り常時、困難な場合はこまめに（30 分に 1 回以上、数分程度、窓を全開する）、2 方向の窓を同時に開けておこなうようにします。エアコン使用時においても換気は必要です。</p> <p>2. 「密集」の回避（身体的距離の確保）</p> <p>できるだけ 2 メートル（最低 1 メートル）空けることを推奨しています。</p> <p>3. 「密接」の場面への対応（マスクの着用）</p> <p>基本的には常時マスクを着用することが望ましいと考えられます。ただし、気候の状況等により熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外してください。その際は、換気や児童生徒等の間に十分な距離を保つなどの配慮をお願いします。また、体育の授業におけるマスクの着用は必要ありません。</p>	<p>1. 適宜、園庭側窓と廊下側扉の 2 方向を開け換気します。エアコン使用時にも窓を開けて換気します。</p> <p>2/3. 当面クラスを 2 つに分けて、隔日保育・半日保育を実施します。</p> <p>（室内）机は 2 名掛けとし、一方向を向くように配置します。手洗いや排泄はクラスごとに時間差で行い、水道には立ち位置に印をつけます。タオル掛けは間隔を空けて使用し、うがいや水飲みの際は所定の場所にマスクをかけるようにします。</p> <p>（園庭）クラスごとに時間を決めて外遊びをします。固定遊具は適宜消毒液で清拭します。身体接触のある遊びや手をつなぐ活動は保育者側からは避けるようにします。子どもが自主的に手をつなぐ場合は様子をみて自然に離れるよう援助します。外遊び時にはマスクは外します。</p> <p>（通園バス）バス会社に清掃消毒を依頼しています。乗車時は窓を開けて換気し、子どもは間隔を空けて着席します。コースごとに座面や手すり等を消毒します。乗り降り時に子どもの手を消毒します。</p> <p>※幼児は発達上、感染予防の理解や自分で行動を制御することが難しいため、「密集」「密接」が偶発する場合があります。完全に回避することは難しいことをご理解ください。保育者側は最大限に留意して保育します。</p>
重症化のリスクの高い児童生徒等への対応について	こまざわ幼稚園の感染防止策
<p>1. 医療的ケアを必要とする園児、基礎疾患がある園児</p> <p>重症化リスクが高い者もふくまれていることから、医療的ケア児が在籍する幼稚園においては、主治医の見解を保護者に確認の上、個別に登園の判断をします。登園すべきでないと判断された場合は「出席停止」として記録を行うようにしてください。</p>	<p>1. 喘息やアレルギー等、持病をお持ちで心配なお子さんは、まずはかかりつけ医とご相談の上、無理のない園生活への参加をお願いします。登園すべきでないと判断された場合は、幼稚園は出席停止として記録します。</p>

重症化のリスクの高い児童生徒等への対応について	こまざわ幼稚園の感染防止策
2. 保護者から感染が不安で休ませたいと相談があった場合、まずは、保護者から事情をよく聴取し、幼稚園で講じる対策について説明するとともに、園運営の方針についてご理解を得るように努めてください。合理的理由があると園長が判断した場合は、欠席とはしないなど柔軟な取り扱いも可能です。	2. 園長・副園長に遠慮なくお申し出ください。ご心配な内容に耳を傾けるとともに、園の対策をご説明申し上げ、不安のないよう取り組みます。合理的理由がある場合は、登園する日とお休みする日を相談し、無理のない登園を一緒に考えてまいります。
教職員の感染症対策	こまざわ幼稚園の感染防止策
教職員においては、児童生徒等と同様に感染症対策に取り組むほか、飛沫を飛ばさないようマスクを着用します。また、毎朝の検温や風邪症状の確認などの健康管理に取り組むとともに、風邪症状が見られる場合は自宅で休養します。	本園の教職員は、出勤時に朝の体温と健康状態を記録します。園長・副園長は全教職員の健康を確認します。教職員は保育中、マスクを着用します。また、子どもとかかわる職業であることを自覚し、職務時間以外の行動に気をつけ健康管理に努めます。
幼稚園において特に留意すべき事項について	こまざわ幼稚園の感染防止策
<p>1. 幼児期は身体諸機能が発達していくとともに、依存から自立への向かう時期である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児自ら正しいマスクの着用、適切な手洗いの辞し、物品の衛生的な取り扱い等の基本的な衛生対策を十分に行うことは難しいため、大人が援助や配慮をするとともに、幼児自身が自分でできるようになっていくために十分な時間を確保すること。 なお、幼児については、マスク着用によって息苦しくないかどうかについて、教職員及び保護者は十分に注意すること。 ・幼児が感染症予防の必要性を理解できるよう説明を工夫すること。 <p>2. 幼稚園は遊びを通しての総合的な指導を行っており、他の幼児との接触や遊具等の共有等が生じやすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染リスクを踏まえ、幼児が遊びたくなる 	<p>1. 保育者は幼児の発達を十分に理解し、感染予防に関する話や視聴覚教材を用いて、日常的に衛生教育の強化に取り組みます。手洗い時には、十分な時間と一人ひとりへの見届けと指導を行い、繰り返し、楽しく正しい手洗いが身につくように導きます。子どものマスク着用については、衛生的な着用となるよう援助し、息苦しい場合は外すなど、無理のない着用に配慮します。汚れた場合には取り換えます。予備のマスクをもたせてください。その場合、汚れたマスクは袋に入れて持ち帰りますので、各家庭で安全に処理をお願いします。</p> <p>2. 子どもが主体的に遊ぶ姿を尊重する一方で、子ども同士が向かい合っていたり、顔を近づけていたりした場合は、友だちとの関係を断ち切るのではなく、教員が適切に言</p>

<p>拠点の分散、幼児同士が向かい合わないような遊具等の配置の工夫や教師の援助を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適時、手洗いや手指の消毒ができるよう配慮すること。 ・幼児が遊びを楽しみつつも、接触等を減らすことができるよう、遊び方を工夫すること。 ・幼児が歌を歌う際には、できる限り一人一人の間隔をあけ、人がいる方向に口が向かないようにすること。 <p>3. 登降園の送り迎えは、保護者同士が密接とならないように配慮するとともに、教職員と保護者間の連絡事項は掲示板等を活用するなどして会話を減らす工夫をします。</p>	<p>葉かけをし距離が保てるよう援助します。</p> <p>子どもの動線を考えた遊具の配置、コーナー遊びの設置等、安全な活動の環境設定に留意します。</p> <p>砂場遊び等において、外で手が洗えるようポケットにハンカチを入れるようお願いします。</p> <p>絵本の読み聞かせでは、子どもは椅子に着席し距離を保つよう配置に留意します。</p> <p>歌を歌う際は、子ども同士の距離や顔を向ける方向に留意します。鍵盤ハーモニカ（年長・年中）の使用は1学期の間はお休みします。</p> <p>3. 送迎は、学年別に時間差とします。時間内にスムーズに行えるようご協力をお願いします。特に、徒歩通園の場合、保護者と一対一で向かい合って話す時間を極力減らし、必要な伝達は電話で行い、その日のクラスの様子は連絡アプリで伝えるようにします。</p> <p>※外部からの訪問者に対しては、マスク着用と検温をお願いし、それができない場合には園舎内に入らないよう玄関先で対応します。</p>
<p>「今年度の学校の水泳授業（幼稚園におけるプール活動を含む）の取り扱いについて」</p>	<p>こまざわ幼稚園の感染防止策</p>
<p>学校プールについては、学校絵環境衛生基準に基づき、プール水の遊離残留塩素濃度が適切に管理されている場合においては、水中感染のリスクは低いと指摘されています。一方、水泳授業においては、児童生徒の密集・密接の場面が想定されるため、様々な感染リスクへの対策を講じる必要があります。対策を講じることを前提として水泳授業を実施することは差支えないと考えます。なお、対策を講じることが困難であり、児童生徒の安全を確保することができないと判断する場合は、今年度における水泳授業の実施を控えるようお願いします。このことについては、幼稚園におけるプール活動についても同様です。</p>	<p>今夏の水泳授業は中止します。ただし、安全を確認した上で水遊び程度は行う予定です。後日お手紙を配布しますのでそちらをご確認ください。実施の場合、「健康カード」に、その日の水遊びの可否を忘れずにお書きください。</p> <p>※水遊びについては状況により判断していきます。</p> <p>※砂遊びは、密接とならないよう実施します。</p> <p>※水分補給は随時行います。水道蛇口を子ども自身で衛生的に使用することは難しいため、しばらく家庭から水筒（中身は体に浸透しやすい水を推奨）を持たせてください。</p>

2. 日本小児科学会による医学的知見からの対策

【資料】日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

『小児の新型コロナウイルス感染症に関する医学的知見の現状』（2020年5月20日）

日本小児科学会の医学的知見（要旨）	こまざわ幼稚園の感染防止策
<ul style="list-style-type: none"> ●COVID-19 患者の中で小児が占める割合は少なく、その殆どは家族内感染である。 ●現時点では、学校や保育所におけるクラスターはないか、あるとしても極めて稀と考えられる。 ●小児では成人と比べて軽症で、死亡例も殆どない。 ●乳児では発熱のみのこともある。10代では凍瘡様皮膚病変が足先に出来ることがある。他の病原体との混合感染も少なくない。 ●SARS-CoV-2 は鼻咽頭よりも便中に長期間そして大量に排泄される。 ●リンパ球減少、プロカルシトニン高値、D-dimer 高値、CK-MB 高値に要注意。 ●胸部 CT では、成人と同様に磨りガラス様陰影や胸膜下病変がよく認められるが、consolidation with surrounding halo sign が小児の特徴の可能性はある。 ●殆どの小児 COVID 19 症例は経過観察または対症療法で十分とされている。 ●急性呼吸不全症例ではコンサルタントや転送のタイミングを逃さないように注意する。 ●COVID-19 罹患妊娠・分娩において母子ともに予後は悪くなく、垂直感染は稀。しかし、新生児の感染は重篤化する可能性もある。 ●海外のシステマティック・レビューでは学校や保育施設の閉鎖は流行阻止効果に乏しく逆に医療従事者が仕事を休まざるを得なくなるために COVID-19 死亡率を高める可能性が推定されている。 ●教育・保育・療育・医療福祉施設等の閉鎖が子どもの心身を脅かしており、小児に関しては COVID-19 関連健康被害の方が問題と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもへの感染は大人からであることを認識し、教職員、及び園内に出入りする大人の健康チェックを行います。 ●園児の家族に感染者や濃厚接触者がいた場合、お休みしていただくようお願いします。 ●集団感染の場とならないように、園舎内の清掃や消毒を強化し、これまで以上に衛生管理に努めます。 ●トイレの換気と衛生管理に努め、消毒液で便座を拭きます。出入りに消毒液マットを常設します。子どもが手を触れる箇所は頻繁に清拭します。 ●妊婦や乳児を抱えるお母様には、感染リスクを避ける環境に配慮します。たとえば、お迎えの際、待ち時間がないように配慮します。 ●すべてのお子さんに健康的な生活リズムがつくれるよう可能な限り幼稚園教育の場を提供します。6月は土曜日を開園して、分散登園による公平な教育の機会を提供します。
<p>⇒詳細な報告は次の URL にあります。 http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20200520corona_igakutekikenchi.pdf 【参考】子どもの家庭内感染状況（令和2年5月15日までの報告 文部科学省） ●報告件数：124件 ●家庭内感染 92例（74.2%）、学校 2例（1.6%）、その他 2例（1.6%）、不明 28例（22.6%）</p>	

3. 園内に感染者が発生した場合の対応

園児・教職員が感染者、及び濃厚接触者と特定された場合、文部科学省と東京都衛生主管部局の指導に従い、学校保健安全法に基づき適切に対応します。

➡第2版（9月1日刊行）では、下線部分を「東京都南多摩保健所」としました。

（1）対応の手順と内容

【園児・教職員】「学校保健安全法第19条」に基づき出席停止・出勤停止とします。

【濃厚接触者と特定された場合】同条に基づき出席停止・出勤停止とします。

【幼稚園】園長は、東京都衛生主管部局と駒澤学園事務局とともに、「園内における活動の態様」「接触者の多寡」「地域における感染拡大の状況」「感染経路の明否等」を確認しつつ、これらの点を総合的に考慮し、臨時休園・学級閉鎖の必要性について相談します。

➡第2版（9月1日刊行）では、下線部分を「東京都南多摩保健所」としました。

（2）感染者に対する偏見や差別の防止

現在もなお、誰もが感染者、濃厚接触者となり得る状況です。感染者、濃厚接触者とその家族、また感染症の対策や治療にあたる医療従事者とその家族に対する偏見や差別が起きることがないように思いやりといわたりの気持ちをもって理解し合えるよう改めてお願い申し上げます。園関係者は、個人情報保護に努めるとともに、心のケアにも努めてまいります。

4. ご家庭へのお願い

●ご家族みなさんが感染しないための健康的な生活習慣を維持していきましょう。

① バランスよく栄養のある食事を摂りましょう。

② 睡眠時間を十分に確保しましょう。

③ 安全な場所で積極的に体を動かして遊ぶようにしましょう。

④ 適宜、水分補給を促しましょう。体の浸透によいのは水であるといわれています。

※非常時が発生した際に、「水」が飲めるようにしておくことも大切なことです。

⑤ 毎朝、検温する習慣をつけましょう。

⑥ 都県境をまたいでの移動はまだ制限されています。人混みを避けて行動しましょう。

●登園前にお子様の検温をし、健康チェックをお願いします。ご家族の中に濃厚接触者等、体調のすぐれない方がいた場合、登園を控えて様子をみていただくようお願いいたします。

●お迎えの保護者は、できる限り同じ人でお願いします。感染リスクを減らすためです。